

平成28年7月有松の町並みは
重要伝統的建造物群保存地区に選定されました

有松

重伝建選定記念特別号

～町並みはみんなのもの～



重要伝統的建造物群保存地区とは？

文化財保護法に規定されている、市町村が指定した「伝統的建造物群保存地区」のうち、特に価値が高いものとして国が選定したもの。有松は、東海道沿いの7.3ヘクタールが「染織町」として選定されました。

重伝建選定記念祝賀行事協賛金協力者

愛知県絞工業組合	梶野 泉	鋤柄 通雄	濱島 正継
あおば保育園	梶野 幸男	鈴置 貞夫	原田 紀美子
青山 弘	梶野 渡	鈴木 和夫	原田 一
浅井 克育	片本 隆子	鈴木 義光	林 富美子
浅井 有紀枝	加藤 明美	鈴木 貢	久田耕一郎(絞りの久田)
阿知葉 征彦	加藤 厚	諏訪部 訓	深谷 貞二
阿知葉様御兄弟	加藤 印刷	高瀬 喜祥	福岡 友一
浅野 康子	加藤 和子	高田 利久	フジプレス(株)
荒木 甲	加藤 一成	高田 浩治	藤枝 静次
有松桶狭間観光振興協議会	加藤 達芳	竹田嘉兵衛商店	ふじ 寿司
有松学区町内連合会	加藤 雅代	多湖 教時	深谷 範雄
有松絞商工協同組合	加藤 満宏	棚橋 恭子	碧海信用金庫
有松商工会	加藤 康之	棚橋耳鼻咽喉科	堀口 明美
有松中学校PTA	蟹江 喜代子	棚橋 汀路	本田 雅己
有松まち普請の会	上林 千恵美	谷口 榮子	前田 ムツ
安藤来助商店	神谷 錦次	土田 幸子	松岡 昭
井川 成子	神谷 武史	豊田 信行	山田 修正
カメラのイトークマ	河村工機製作所	CAFÉ NaNa	松崎 幸子
伊藤 香	川村 道彦	中島 喜八	丸山 忠之
伊東商店(あずまや)	北山 啓司(キタヤマ化粧品)	中島 基人	三浦 典久(早恒)
伊藤 忠行	鬼頭 昭一	中島 信行	三菱東京UFJ銀行鳴海支店
伊藤 弥生	駄菓子きょうか	竹田 敬民	水田 すみ子
伊東 葉子	グランパニエ	中濱 豊(中濱商店)	水畑 康男
鶴飼 正巳	工藤 典子	中村 昭子	南 埜 ヤエ子
鶴飼 満	久野 染工場	中山 喜代志	宮田クリニック
鶴飼 良彦(張正)	久野 富男(久野 友子)	山中 宣男	六 鹿 晴美
宇佐美 節子	黒川 和博	長塚 啓	村井 武
大島 一浩	小粥 昭六	長塚 祐	村野 實
大菅 喜与枝	小塚 雅子	成田 治	森井 静枝
大西 満寿夫	日本料理 今・小や町	西尾信用金庫鳴海支店	安田 千之
岡田 邦彦	近藤 富喜男	丹羽 淳一	山上 正晃
岡田 三郎	近藤 好彦(株近喜)	橋爪 務	山口新聞店
岡本 明彦	NPO法人 さわやか絵手紙教室	櫛 力	日本料理 やまと
緒川 憲司	佐藤 正夫	服部 卓	山田 莊八
緒川 友征	沢田 登	服部 亨(フクベ不動産)	山田 峯夫
小澤 武夫	河合 輝和	服部 崇(グローペン)	山田 るり子
桶狭間学区区政協力委員会	松柏 苑	服部 豊	渡邊 善介
山田 国美	酒井 清		

ご協力ありがとうございました(順不同・敬称略)

重伝建選定を祝った行事の数々

(名古屋市をはじめ多くの方々のご協力により祝賀行事が実施されました)
ことを感謝申し上げます。 重伝建選定祝賀行事実行委員会

平成 28 年 10 月 1 日 祝賀夜祭り 於 祇園寺



日本舞踊



尾張万歳



西町囃子込み



一人語りと演奏

10 月 2 日 重伝建選定記念シンポジウム 於 有松小学校体育館



シンポジウムのオープニングセレモニーとして
有松小学校の児童が全員で歌ってくれました

「有松」みんなの故郷

ふるさと
作詞 石井 亨

1. 歴史の街の 優しい仲間
今日も笑顔で歩く 街並み
心と夢で築き上げられた
時代の商家は 街の人の誇り
輝け「有松」 みんなの故郷
2. 匠の街の 明るい仲間
今日も明日に 望み溢れる
心と技で染め上げられた
伝統の紋りは 街の人の誇り
羽ばたけ「有松」 みんなの故郷
3. 文化の街の 元気な仲間
今日は待ちわびた 祭りの時
心の絆で街じゅうを巡る
時を伝える山車は 街の人の誇り
集えよ「有松」 みんなの故郷

11月12日・13日 晩秋の有松を楽しむ会、文化財のライトアップ



11 月 19 日 記念植樹祭 於 有松公園



提灯で有松東海道を明るく



四季をイメージした4色(桜・浅葱・藍・白)の絞りカバー

重伝建選定祝賀事業を終えて

有松まちづくりの会会長 服部 豊

開村四百年を過ぎ今も立派に町の歴史文化が引き継がれている町「有松」。

この度七月二十五日文科科学省より重伝建の選定を戴く事が出来ました。十月二日には有松小学校体育館に於いて、名古屋市主催の記念式典が執り行われ、河村たかし市長始め三百人余りの人々の参

加により盛大に式典を終える事が出来ました。

「有松まちづくりの会」は約四十年前から我々の悲願であった選定を待ち続けて参りました。五年前から行政と共に重伝建選定推進体制を作り、会議に会議を重ね今日まで頑張つて参りました。御蔭で一里塚の再現、電線の地中



切り絵「有松の町並み(井桁屋)」 豊田信行

化、一方通行が全て完成。そして重伝建の選定を受け、観光客の皆様はゆつくり町の景観を楽しんで戴ける様になって参りました。有松は、固有の歴史と文化が社会的条件の中で何代にも亘つての営みが町をつくり、その蓄積と洗練を重ねて今日まで受け継がれて来ました。これはその地域のない財産です。この度の重伝建選定によって町全体が文化財となり、今迄の様

に保存するだけでなく今後は保護していくもので、再生活用していく事が大切な事です。これが新しい町づくりであり、その中で住民が心豊かに安心して暮らせる町でなくてはならないのです。

町並み保存はその地域に根ざしたボトムアップの町づくりです。施策をして町並み保存は選択されていくものと思えます。重伝建選定というインパクトが範囲を広げて、異なるメンバーが重伝建という共通の目的に対して相互理解のもと「知恵を出し合い」「力を合わせ」この目標に向かって行く喜びこそ大切なものとなるのです。

我々は先代の皆様方の努力と協力によって町並みが少しでも残る様にと「有松まちづくりの会」および「全国町並み保存連盟」を発足させ、それが現在大きな花を開いて来たのです。その陰で、有松の町並み保存のリードオファマンとして町の人を説得し続けてこられた、当時朝日新聞の記者であった、今は亡き石川忠臣様に改めて深く感謝致す次第です。故人となられた石川様も大層喜んで居られる事と信じて居ります。

短歌

秋天瑠璃 山田 峯夫

藍の香のそこはかとなく漂える
重き史を継ぐ家並のつづく
時を経て栄えある今日を迎えたり
町並絞り古き戦場
天明の大火のあとの町並を
鬼瓦が四方に眺みきかせる
(有松まちづくりの会 参与)
中部短歌会 同人

有松のあゆみ・重伝建までの道のり

1600	慶長 5	関ヶ原の戦い
1601	6	東海道の整備始まる
1603	8	徳川家康 江戸幕府を開く
1608	13	有松の誕生(尾張藩が桶狭間の支郷として、免税の特権をつけ開拓者募集のお触書を出す。最初の入植者は阿久比の庄からの8名)
1610	15	名古屋城築城始まる。その折、豊後の絞りを習う。
1675		有松絞りの始まり
1675	延宝 3	山車「布袋車」名古屋の若宮八幡宮の祭礼に登場
1755		(明治24年に有松へ)
1781	天明 5	祇園寺建立
1784	4	絞りの独占権を獲得
1798	10	大火災が起こり全村消失
1830	頃天保元	有松天満社建立
1868	明治元	山車「唐子車」内海の豪商・前野小平治が建造
1873	6	(明治8年に有松へ)
1874	7	有松絞りの独占権消滅
1917	大正 6	「神功皇后車」有松にて建造
1947	昭和 22	有松小学校創立(知多郡第19番小学有明学校)
1964	4	愛知電気鉄道(現名鉄)有松線が開通
1964	4	有松中学校創立
1969	4	服部家住宅(井桁屋)愛知県指定文化財に
1973	3	有松、名古屋市に合併
1974	4	石川忠臣氏(朝日新聞記者)有松を訪れ、有松町保存会準備会発足
1974	4	有松まちづくりの会発足
1974	4	「布袋車」「唐子車」「神功皇后車」名古屋指定文化財に
1974	4	有松・妻籠・今井町の3地区で「町並み保存連盟」結成



定に至ったのは、何世代にもわたり町並みを継承してこられた有松のまちの皆様はもちろんのこと、40年前から町並み保存に取り組んでこられた有松まちづくりの会の方々のご尽力の賜物です。ここに謹んで感謝を

このたびの重要伝統的建造物群保存地区（以下、重伝建）の選定、誠におめでとうございます。江戸時代の東海道沿いの風情が残る有松の町並みが、重伝建に選定されたことは大変喜ばしいことです。名古屋市中では地域の皆様とともに、平成24年度から、有松町並み保存地区の見直しを進めてまいりました。2か年にわたる実測調査では、まちの成り立ちや町家の建

築年代などが明らかになり、有松の町並みが全国的に見ても価値が高いことがわかりました。このため、地域の皆様と話し合いを重ねながら、本市が平成28年2月に有松の東海道沿いの町並みを伝統的建造物群保存地区に指定し、その後、国から重伝建として選定がなされたものです。大都市名古屋にこれほどの町並みが残り、このたびの重伝建の選定に至ったのは、何世代にも



申し上げます。有松には、世界に誇るべき「4つの宝」があります。それは、東海道沿いの歴史的な町並み、400年前から受け継がれてきた伝統産業の有松絞り、江戸期から明治期に制作された市指定文化財の3輦の山車、そして織田信長の大逆転劇の舞台となった桶狭間古戦場です。これら4つの宝を名古屋の誇りとして、守り、活用して未来につないでいくことが大切です。今後、地域の皆様と協力して町並みの保存に取り組むとともに、重伝建選定を契機に、本物の歴史・文化が受け継がれている有松の魅力を引きさらに高め、広く発信し、まちの活性化につなげていきたいと考えています。「有松 みんなで盛り上げていこみやあ！」を合言葉に、幅広い市民の皆様が一層のご理解、ご協力をお願い申し上げます。今後の貴会のご活躍と有松の一層の発展を祈念いたします。

2017/11	2016/7	2016/2	2013	2012/13	2010	2009	2008	2006	2001	1996	1995	1992	1988	1987	1984	1980	1978	1976	1975
29	28	25	22	21	20	18	13	12	8	7	63	62	59	55	53	51	50		
全国町並みせみ名古屋有松大会開催(予定)	名古屋市の有松を伝統的建造物群保存地区に指定	名古屋市の有松を伝統的建造物群保存地区に指定	無電柱化工事・電線地中化事業完成	町家の実測調査(約40軒)	伝建・重伝建推進委員会が発足	有松の重要伝統的建造物群保存地区に選定	有松東海道無電柱化の会発足	提出したが不成立	有松まちづくりの会及び有松の町並みに都市景観特別賞	重伝建実行委員会が発足	「選定同意書」を名古屋市内に提出したが不成立	有松東海道無電柱化の会発足	中濱家住宅、登録文化財に	柵橋家住宅、登録文化財に	伝建・重伝建推進委員会が発足	町家の実測調査(約40軒)	無電柱化工事・電線地中化事業完成	名古屋市の有松を伝統的建造物群保存地区に指定	名古屋市の有松を伝統的建造物群保存地区に指定

重伝建選定後の有松へ

梶野 幸男
(有松桶狭間観光振興協議会 会長)

重要伝統的建造物群保存地区に選定されたことは喜ばしいことですが、有松の伝統産業や文化及び町並みを後世に伝える責任と義務を同時に背負ったこととなります。これらは、所有者とか一部の人に課することだけでなく、地域全体が共通認識をもって果たすべきことだと思います。

そのためには、この町の良さ、価値を知って自身の住む町を誇りに思ってもらうことです。そうすれば保存・伝承の必要性も理解でき、さらに魅力を高めるための知恵も生まれてくるものです。

この有松を理解してもらうには、町を外側からも内側からも見られるようにすべきであり、そのためまずは町家の開放を提言します。

統一感のある町並みづくり

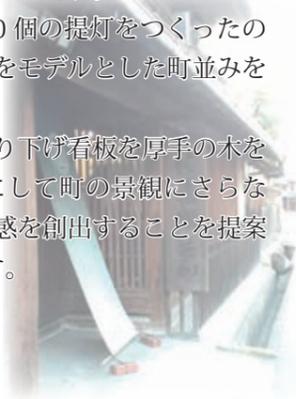
竹田 嘉兵衛
(有松まちづくりの会 副会長)

今、有松では、重伝建の祝賀イベントも本年の大晦日の夜に予定されている提灯によって町並みを明るくすること、往く年来る年を祝う提灯行列をすることを残すのみになりました。

美しい町並みをつくるには建築のスタイル、建物の高さ、色彩等に統一感がある事が必要であることは、日本でも世界の例を見ても明らかです。

今回100枚ののれんと300個の提灯をつかったので、それを利用して江戸時代をモデルとした町並みをつくってみたいものです。

さらに来年にでも町中の吊り下げ看板を厚手の木を使い、大きさをほぼ同じにして町の景観にさらなる江戸時代的な統一感を創出することを提案したいと思います。



私の提言

いつもの風景

六鹿 将希
(東町山車係 大学2年)

私は通学などで家から有松駅へと向かうとき、いつも同じ道を、同じ風景を見ながら向かう。いい加減見飽きてしまうような風景かもしれないが、最近はこの伝統ある有松の町並みの大切さを実感させられることが多い。というのも、大学に進学して生活の行動範囲が広まったからだ。名古屋を離れて東へ西へ様々な土地を歩くことが多くなったが、この有松のように伝統と調和のとれた風景に出会ったことはまだない。友人が有松に来ると、皆が口をそろえて「良い町並みだね」と言ってくれる。そんな有松が今回は重伝建に選定されたということもあり、私はより一層この町に誇りを持ち、愛着を深めることになった。この風景が、多くの人に愛され、いつまでも存続されていくよう切に願う。その為には、もっともっと多くの人に有松を知ってもらうことが必要だ。ぜひSNSを活用した有松のPRを提案したい。



書物の中の町並み

河村 瑛子
(京都大学大学院 文学研究科 助教)

有松の町並みを永く残すために、真っ先に着手すべきは、詳細な「有松史」の編纂です。

現在、有松の歴史については概説的な書物が備わるのみで、町の沿革はおぼろげにしか把握できません。このことは、長期的な視点で考えたとき、有松の歴史のよりどころが、実はきわめて脆弱であることを意味しています。今後、社会や価値観の変容、災害などの困難に直面した際、この問題は一層の深刻さを伴って浮かび上がってくるはずだ。

古文獻に現れる有松の記事を収集・整理し、かつての有松の姿をつぶさに知ること、そして、そうした文献上の根拠に基づいて「有松史」を記すこと——かかる営みは、町並みを守り続けるための理論的な支柱となります。質量を持たない文字情報は、物と違って滅びにくく、半ば永続的なものであるからです。

過去を疎かにする町に発展は望めません。まずは往古に正面から対峙し、たしかな礎を築くことが肝要なのではないでしょうか。

文化財の山車まつり



神功皇后車 (西町)



唐子車 (中町)



布袋車 (東町)

有松の繁栄を伝えるからくり人形を乗せた豪華な山車3輛。平成26年、この山車だけでなく「有松の山車まつり」全体が名古屋市の無形文化財になりました。(山車まつりは毎年10月第一日曜日に開催されます。東海道での山車曳きにはどなたも参加できます。)

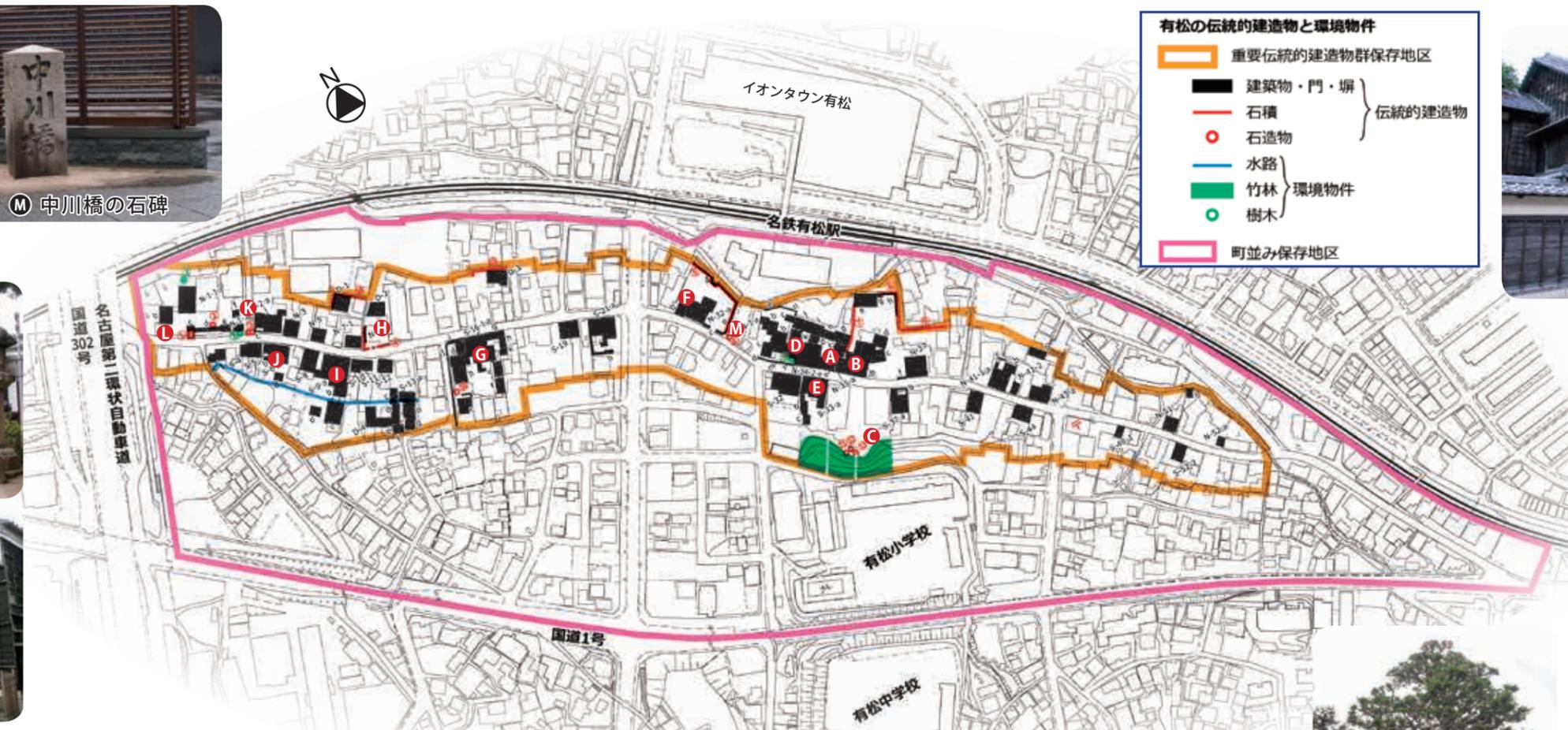
町並みが文化財

有松は、慶長13年(1608年)に尾張藩の移住奨励により開かれ、間もなく考案された絞り染めによって江戸時代を通じて発展しました。

集落の成立から現在まで一つの産業(絞り)を継続し、絞商の豪壮な町家と絞りに関わる諸職の町家が建ち並ぶ特色ある歴史的風致をよく伝える町並みは、我が国にとって価値が高い、と評価され重伝建の選定となりました。

有松の町並みの中で、町家の主屋や土蔵等の建築物108件、石積や石造物15件を伝統的建造物として、水路や樹木等7件を環境物件として特定しています。

町家だけでなく東海道に連なる「有松の町並み」が文化財になったのです。



有松の伝統的建造物と環境物件

重要伝統的建造物群保存地区	建築物・門・塀	伝統的建造物
	石積	
	石造物	環境物件
	水路	
	竹林	
	樹木	
町並み保存地区		